

小学校第5学年 社会



端末を活用し調べ記録してきたカードを端末上で関連付けて図に整理し、既習も用いて稲作に関わる人々の働きを考え、表現する。

小学校第5学年 社会「米づくりのさかなな地域」

■単元の目標

我が国の農業について、地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、表現することを通して、稲作に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして良質な農作物を消費地に届けるなど食料生産を支えていることを理解するとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、我が国の農業の発展を考えようとする態度を養う。

■単元の概要

生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて調べたことを図にまとめることで、情報を関連付けたり総合したりしながら、稲作に関わる人々の工夫や努力とその土地の自然条件や消費者の需要を関連付けて、農業に関わる人々の働きを考え、説明し合う。

■単元の指導計画（10時間）

第1・2時 学習問題をつくる

「評判のよい米をMさんたちはどのように生産し、私たちに届けているのだろうか？」

第3時 予想を基に、学習計画を立てる

- ・生産工程
- ・耕地整理や機械化
- ・品種改良
- ・農協
- ・輸送

第4～8時 学習計画に沿って調べ、端末上に記録する（蓄積していく）

第9時 調べたことを図に整理し説明し合い、稲作の仕組みやそれに関わる人々の工夫や努力を文章にまとめる

第10時 消費者と生産者の立場を踏まえ、稲作の発展を考える

■主な時間の概要

米が1年中食べられることや高い品質で作られていることに着目し、生産工程や品質向上、効率化の工夫、消費者に届くまでの過程に問いをもち、学習問題や学習計画を立てる。

地図や統計、動画などの各種資料を活用しながら調べ、観点ごとに、社会的事象の意味を考え、学習問題とつなげたまとめを端末上に記録する（蓄積していく）。

「生産工程」「耕地整理や機械化」「品種改良」「農協」「輸送」を関連付けたり総合したりしながら、稲作に関わる人々の働きを考える。まとめた図を基に一人一人の考えを説明し合い、稲作の仕組みについて共有したことを踏まえて、それに関わる人々の働きを文章にまとめる。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（9時間目）

【学習活動の場面】

端末上の「1枚ポートフォリオ」に記録している「生産工程」「耕地整理や機械化」「品種改良」「農協」「輸送」について調べたことを、関連付けたり総合したりしながら、稲作に関わる人々の働きについて自分の考えをもつ。各自が学習したことをまとめた図を基に学習問題の解決に向けて全体で話し合い、既習の知識も生かしつつ、稲作の仕組みやそれに関わる人々の働きを文章にまとめる。

【子供の「深い学び」の姿】

① **Aは調べまとめたカードを1枚ポートフォリオから取り出した。**
 A「他の品種もつくり、暑さに弱いところを克服してしっかりと育てられるようにしている。低地で暮らす人々の取り組みも関連しそう。このことを図に下げたい。」

② **その後、社会的事象同士の関連を考え、図に整理した。**
 A「図に整理すると、問題点が改善して米の品質がよくなり、消費者や生産者にとってのよさにつながるのだと分かった。」

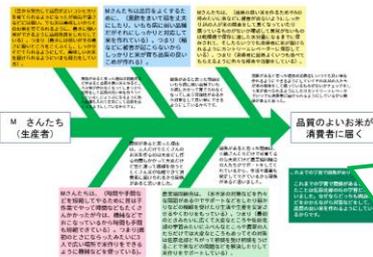
③ **Aは図を基にした話し合いを通して、既習の知識も生かしつつ、学習問題について考え、稲作の仕組みやそれに関わる人々の工夫や努力を文章にまとめた。**

A「南魚沼市のMさんたちは、品質の高い米をつくれるように機械を使ったりJAと協力したり、試験場の協力で品種改良したりして生産している。また、いつでも届けられるようにカントリーエレベーターに保存している。つまり、「低地で暮らす人々」のように水害のリスクなどの弱点を乗り越えつつ、品質がよくなるよう工夫して生産している。」

【当該指導での「深い学び」】

Aは自分の学習計画に沿って調べてきたことを端末上にカードとして記録していった。これを活用し、**社会的事象同士の関連を図に整理したことで、稲作の仕組みやそれに関わる人々の工夫や努力を考え、説明することができた。**また、話し合いを通して、**既習の知識も生かしつつ、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして良質な農作物を消費地に届けるなど食料生産を支えていることを理解することができた。**

	どんなことをしているか	図中の関係性（図に整理した関係性）	学習問題につなげてまとめる
A: 南魚沼市は、どのような気候で育っているのだろうか。	南魚沼市は、冬は雪が多く、夏は比較的涼しい気候である。	暑さに弱い品種を育てるためには、涼しい気候が適している。	暑さに弱い品種を育てるためには、涼しい気候が適している。
B: どのような品種が育っているのだろうか。	南魚沼市では、暑さに強い品種と暑さに弱い品種が育っている。	暑さに強い品種と暑さに弱い品種を育てるには、それぞれに適した環境が必要である。	暑さに強い品種と暑さに弱い品種を育てるには、それぞれに適した環境が必要である。
C: どのようにして、米を育てているのだろうか。	南魚沼市では、水田で米を育てている。	水田で米を育てるには、水が豊富に供給される必要がある。	水田で米を育てるには、水が豊富に供給される必要がある。
D: 農協や試験場の役割はどのようなものだろうか。	農協は、生産者の利益を守り、試験場は、新しい品種を開発している。	農協と試験場の協力で、新しい品種を開発し、生産者に提供している。	農協と試験場の協力で、新しい品種を開発し、生産者に提供している。
E: なぜ他の品種も作るのだろうか。	南魚沼市では、消費者のニーズに合わせて、さまざまな品種の米を生産している。	消費者のニーズに合わせて、さまざまな品種の米を生産している。	消費者のニーズに合わせて、さまざまな品種の米を生産している。



■指導上の工夫とICTの利活用

① 端末上のポートフォリオに記録してきたカードを取り出す。

* 学習計画に沿って調べてきたことは端末上の「1枚ポートフォリオ」に記録し蓄積してきている。書き写さず複製して使用することができる。また、これまでの単元の自分の学びを振り返ったり参照することができる。

② 配信された図のフォーマットにカードを貼り付け線で結び、事象同士の関連を考えるようにする。

③ 図を基にした話し合いを通して、稲作の仕組みや人々の工夫や努力を文章にまとめるよう働きかける。

* 共有機能によって友達の図も参照することができる。また、端末を用いることで、何度も修正しながら文章にまとめることができる。

【活用したソフトや機能】
 □イロノート
 (資料箱・共有・配信機能)

学習指導要領や解説との関連

学習指導要領 第2章 第2節 社会

第2〔第5学年〕

2 内容

(2) 食料生産

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。

(ウ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。

学習指導要領解説 第3章 第3節

2 第5学年の内容

(2) 食料生産

その（食料生産に関わる人々の）働きを考え、表現するとは、例えば、食料生産の仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて、食料生産に関わる人々の働きを考え、文章で記述したり、白地図や図表などにまとめたことを基に説明したりすることである。